

佐藤神経内科診療所

院長 佐藤 健一 Kenichi Sato

佐藤神経内科診療所

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-31-23 セピアメゾン 1F1

TEL : 03-5971-8780 FAX : 03-5971-8781 <http://www.012.upp.so-net.ne.jp/satoken/>

「患者さんの話をゆっくり聴いて、診療していきたい」と穏やかに話す佐藤神経内科診療所院長の佐藤健一先生は、大学病院に長く勤務された経験をもとに練馬区の住宅街に開業し、地域の神経疾患診療に尽力されている。高齢患者の多い練馬区にあって、パーキンソン病診療を行う意義はなにか。そして、診察時間を長くとり、患者と正面から向き合う診療になぜ取り組まれているのか。今回は、佐藤先生のパーキンソン病診療への想いや実際の取り組みを伺った。

クリニックの開院のきっかけ

—開業されるまでの経緯についてお聞かせください。

1992（平成4）年に順天堂大学医学部を卒業し、その後同大学の脳神経内科に入局しました。学生の頃は、神経疾患は「原因のわからない難しい病気」というイメージをもっており、神経内科を専門とするとは思っていませんでしたが、当時脳神経内科の教授であった水野美

邦先生とは入局前からご自宅に呼んでいただくなど交流がありました。水野先生にお世話になり、そのお人柄に惹かれ、先生のもとで学びたいという思いから、神経内科医を志すこととなりました。

神経内科医として、順天堂大学医学部附属順天堂医院（以下、順天堂医院）で勤務した後、この練馬区に2005（平成17）年に開院した順天堂大学医学部附属練馬病院（以下、練馬病院）に医長として脳神経内科の開業に携わりました。2008（平成20）年まで勤務した後、練馬病院の近隣であるこの場所に同年4月に当院を開業しました。

—開業に思い至ったきっかけを教えてください。

練馬病院で勤務している頃には、病棟と外来の両方を担当していましたが、練馬区の近辺は神経内科の患者さんが非常に多く、診療の時間を思うようにとれないことが少なくありませんでした。また、大学病院の性質上、神経内科以外の症状については、患者さんに別の診療科を受診してもらう必要がありました。こうした状況のなか、私自身は患者さん一人ひとりの診察時間をより多くとり、十分に話を聴く診療を行いたいと考えておりました。その矢先に、順天堂医院への異動の話をいただきま



佐藤 健一 先生